

- 「施設の老朽化」や「人口減少・少子高齢化」「社会・環境の変化」など、公共施設を取り巻く環境は時代とともに大きく変化しています。

施設の老朽化

- 昭和40～50年代の人口急増期に多くの公共施設を整備
- これらの施設の老朽化が進み、今後、改修や建替え（更新）に多額の費用が必要

人口減少 ・ 少子高齢化

- 人口減少や少子高齢化が進行（2015年 2065年）
- 相模原市の人口は、約72万人 約54万人
- 高齢化率は、24% 41%

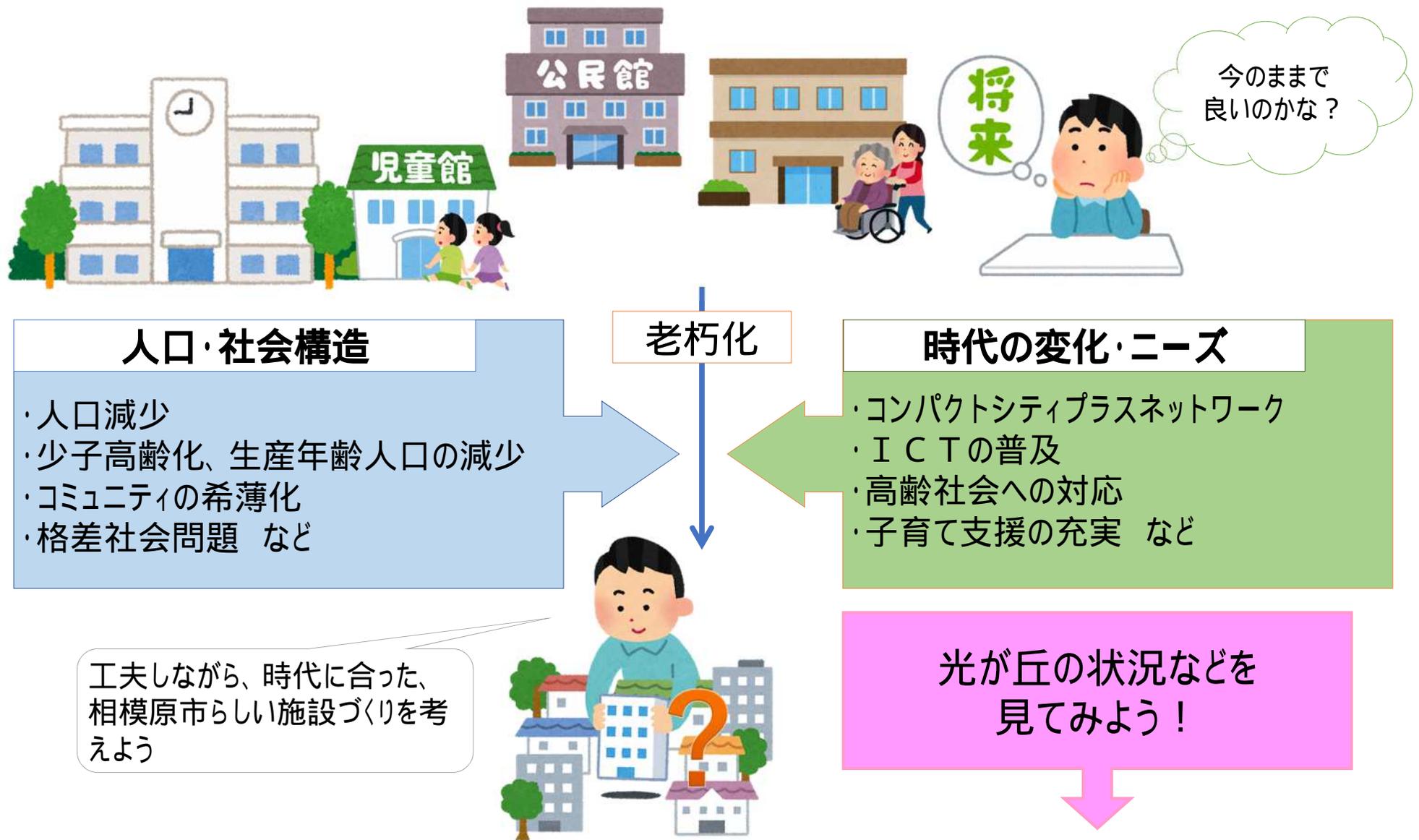
社会・環境 の変化

- 今後想定される大規模災害への備え
- 個人の趣味や活動の多様化など、求められる役割の変化
- 技術革新によるサービスのあり方の変化

公共施設を取り巻く環境は
時代とともに大きく変化

次世代に引き継ぐための公共施設のあり方

- 相模原市では、公共施設の老朽化や施設を取り巻く環境の変化を踏まえ、公共施設マネジメントの取組を進めるための方針や計画を作成し、相模原市らしい施設づくりを考えています。





光が丘・陽光台・並木・青葉小学校

小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において、令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、光が丘小学校、陽光台小学校、並木小学校に再編するという対応方針が定められたところです。

閉校後の
学校跡施設の
有効活用



療育センター陽光園、陽光台保育園など

子どもに関する公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。

学校再編の取組状況を踏まえながら、将来を見据えた検討を始めていきます

【取組の方向性】

今後、閉校することになる青葉小学校の学校跡施設は、

「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」

を基本とした利活用を検討していきます。

【市の方針】

「療育センター陽光園」「陽光台保育園」で利活用します。

一体的
な活用

【地域とともに考えていくこと】

地域課題や周辺公共施設の状況を踏まえ、「地域にとって必要なサービス・機能」での利活用を検討します。

光が丘地区の公共施設配置図



療育センター陽光園 築46年
 建設年度 S49 - H5
 延床面積 3,290㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い。



陽光台保育園 築46年
 建設年度 S49
 延床面積 718㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い



陽光台小学校 築45年
 建設年度 S50-S51
 延床面積 6,409㎡
 学習環境のあり方検討対象



光が丘小学校 築51年
 建設年度 S44-H2
 延床面積 7,876㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：光が丘児童クラブ

光が丘児童館 築49年
 建設年度 S46
 延床面積 196㎡



青葉小学校 築43年
 建設年度 S52-S53
 延床面積 5,718㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：青葉小学校放課後子ども教室・青葉児童クラブ

並木小学校 築46年
 建設年度 S49-S50
 延床面積 7,002㎡
 学習環境のあり方検討対象



光が丘公民館 築36年
 建設年度 S59
 延床面積 1,004㎡
 長寿命化改修検討対象



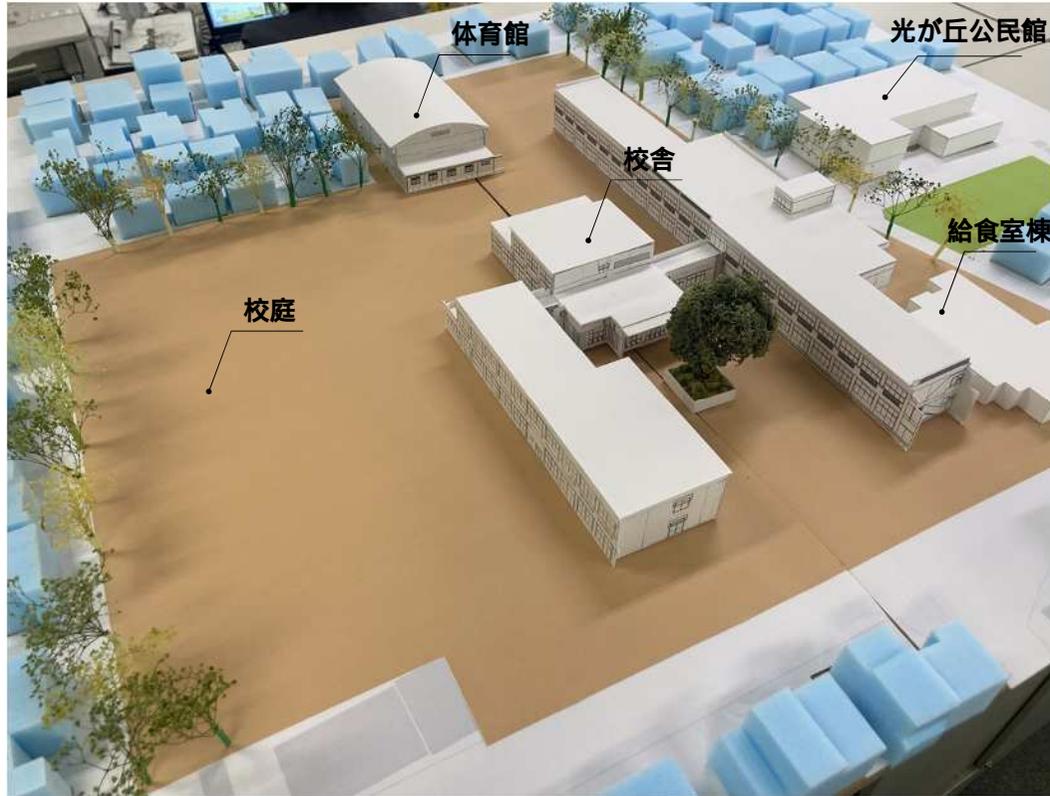
青葉児童館 築46年
 建設年度 S50
 延床面積 253㎡
 行財政構造改革プランの見直し対象



建設年度：令和2年4月1日時点
 建設年度は、棟ごとに表しています。
 (古い棟 - 新しい棟)
 市営住宅、消防団詰所は除いています。

● 認可保育園、認定こども園

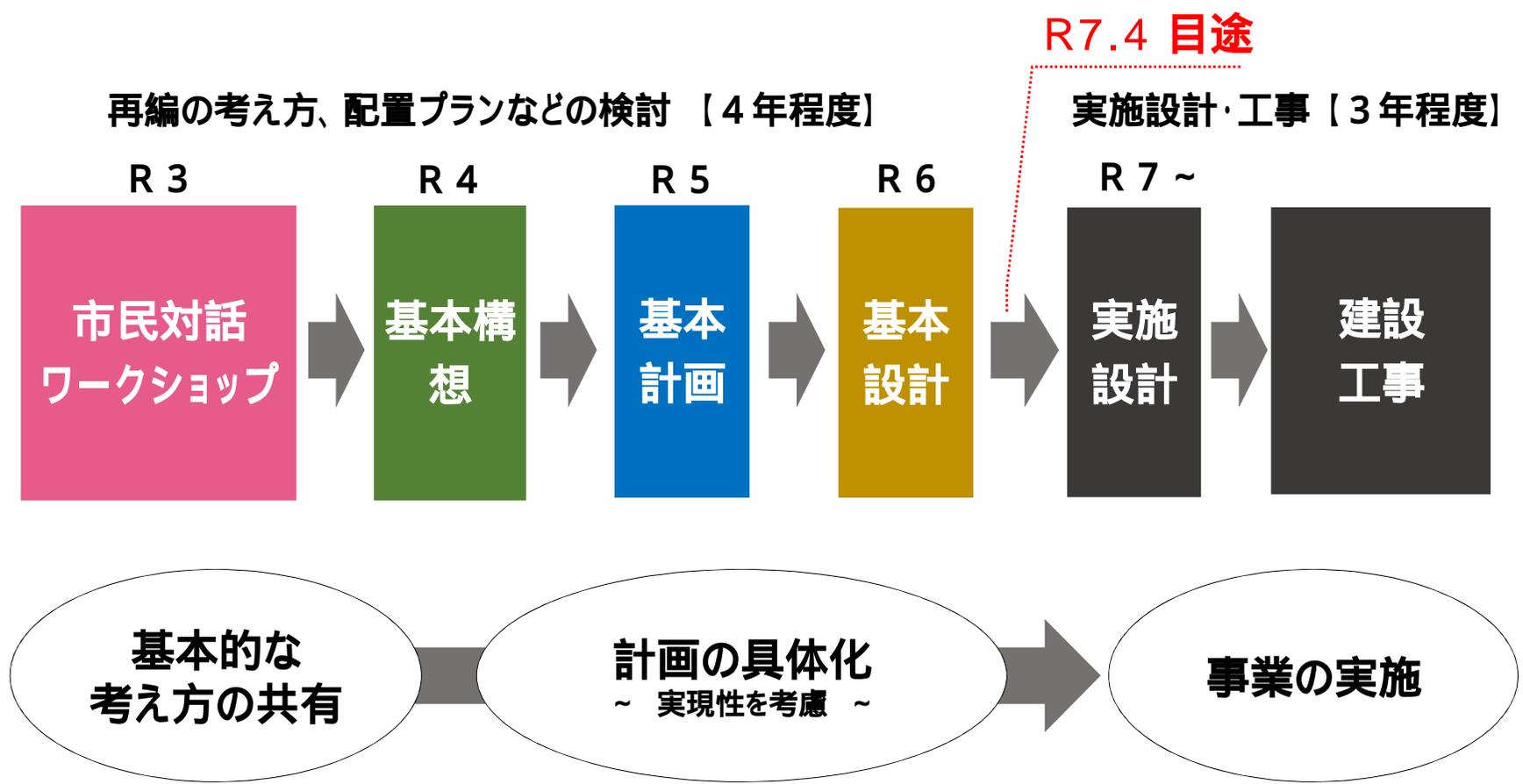
青葉小学校の校舎や校庭



施設名称	青葉小学校	
所在地	相模原市中央区並木4-8-4	
交通	(バス停) 千代田、上溝保育園前	
敷地面積	16,680㎡	
土地保有状況	市保有	
用途地域	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域 用途制限は、第二種住居専用地域と跨っていますが、敷地の過半を占める第一種低層住居専用地域の基準が適用されます。	
建物の構成	建築年度	昭和52～53年度
	延床面積	5,718㎡
	階数	地上2階建て
	構造 / 耐震化	RC造 / 不要
災害機能	避難場所(地震)、避難所	

全体のロードマップ

- 令和3年度の市民対話ワークショップなどの成果を踏まえ、基本構想などを策定し、実現に向けた取組を進めます。
- 学校の再編の進捗状況を踏まえながら、令和7年4月から実施設計などを行い、施設の利活用がスムーズに行えるように事業を実施します。



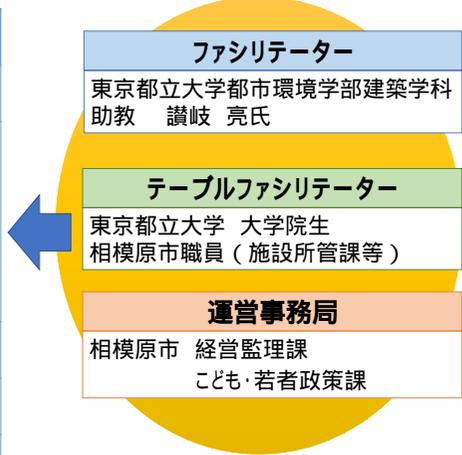
今後の検討状況等により、スケジュールは変更となる場合があります。

ワークショップの体制図

- 今回のワークショップは、地域団体や関連団体からの推薦のほか、施設利用者、一般公募など、様々な立場や世代の方に参加してもらいました。

東京都立大学のご協力をいただきながら、運営しました。

参加者の構成 (18)
光が丘地区まちづくり会議委員 (4)
小学校PTA連絡協議会 (4)
光が丘公民館運営協議会 (2)
子ども会育成連絡協議会 (1)
青葉小学校避難所運営協議会 (1)
学習環境のあり方検討協議会 (1)
療育センター陽光園保護者 (1)
公募市民 (4)



ワークショップのスケジュール・内容

- 全4回を開催し、参加者をA～Cの3グループに分け、グループワークを行いました。



開催日	実施内容
第1回 (11月27日)	学校での思い出や、地域の魅力・課題の共有 学校での思い出や地域活動を共有して、地域の魅力や課題を考えよう！
第2回 (12月19日)	跡地活用のイメージ 施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことなどを考えよう！
第3回 (1月15日)	再編コンセプトや跡地活用の具体化 やりたいことなどをカタチにして、再編コンセプトを考えよう！
第4回 (3月21日)	再編案のまとめ 実現に向けて、自分事としてアイデアなどを考えて再編案をまとめよう！

Aグループ

施設名・コンセプト

光が丘ランドマーク

地域の主要拠点 ~子供から大人までが集まれる場所に~



空間利用のアイデア

- 地域の中心として公民館と一体化利用
- ふれあいゾーン(誰でも自由に使える場所)
- 共有スペース(災害時は避難場所に)

くだすの木周辺を広場に
ランチルームやテラスで食事をしたり、
キッチンカーを入れる

体育館横や校舎内トイレ
災害時に簡易トイレとしても使用出来るよ
うに洋式に変更する

防災倉庫の増設
移動可能なコンテナ倉庫を用意し、防災用
品の増量に備える

校庭の具体案
緊急時に防災公園となるように、かまどベ
ンチの設置や地面の凹凸を解消する

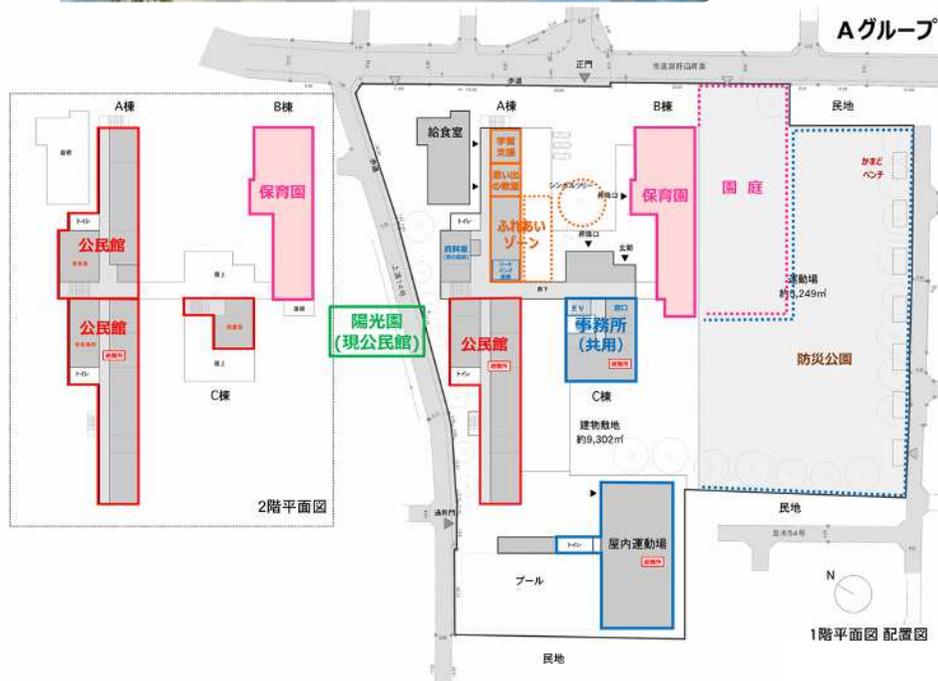
くだすの木のライトアップ等
保育園園児の成長を感じながら、春夏秋冬
に応じた飾り付けやイベントを行う

家庭科室
通常は料理教室やカフェの調理場等に利用
し、緊急時は避難所の炊事場となる

思い出の教室・学習支援教室
卒業制作等を展示したり、学習支援ができ
る諸室を設置する

校庭
防災面での利用に加え、公園のようにみん
なが集まれるフリースペースに！

校庭の具体案
桜を残してお花見をしたりキャンプ場や運
動場として利用したい



実現に向けたアイデア

- 自分たちができること
- * 手作り出来るものは自分達で作成する。例えばかまどベンチの材料には、相模原市の森林の間伐材や廃材を使用してコストを抑える。
 - * 地域の皆が防災公園の掃除や見守りを行う。

- お金をどうするか
- * 最初は行政(公的補助金)で賄う。その後は、学校施設の再活用を大きく宣伝し、クラウドファンディングで資金を募集する。民間企業の協賛金も検討する。

- 運営をどうするか
- * 事務所に受付窓口を設けて、駐在してもらい地域ボランティアを募る。
 - * ふれあいゾーンは、事業者(パン屋など)に運営してもらう。(例) 松ヶ丘園、OHANA BAKE
 - * 学習支援教室は、社会福祉協議会や地域の中高生、大学生が運営する。
 - * 陽光園と保育園の専用スペースをはっきりさせるために、壁の色を分ける。(共有が専用が分かりやすいと一般の方も利用しやすい。)

目指す未来像

- 地域の皆さんが笑顔になれる場所、憩いの場
- 久しぶりに会う人と会話出来る場
- 多世代交流の場「スクランブルスペース」「光が丘スクエア」「青葉くだすの木ホーム」



光が丘ランド

—ブライスレス—

Cグループ



空間利用のアイデア

- ・公民館とかぶらない機能
- ・ボール遊び広場
- ・完全防音室
- ・無料学習室、子育て広場/時間別利用

ボール遊びができる運動場&スケートボード場
運動場に20m×20mの予約制の練習場を設置

子育て広場
午前中の人の少ない時間に読み聞かせや交流ができる場所

みんなが遊べる公園
背もたれのあるブランコ・親子で滑る滑り台など、障がい児が遊ぶことのできる遊具のある公園
障がい児と健全児が交流できる公園

完全防音室
吹奏楽や和太鼓、民謡、尺八、打楽器の練習が自由に行える

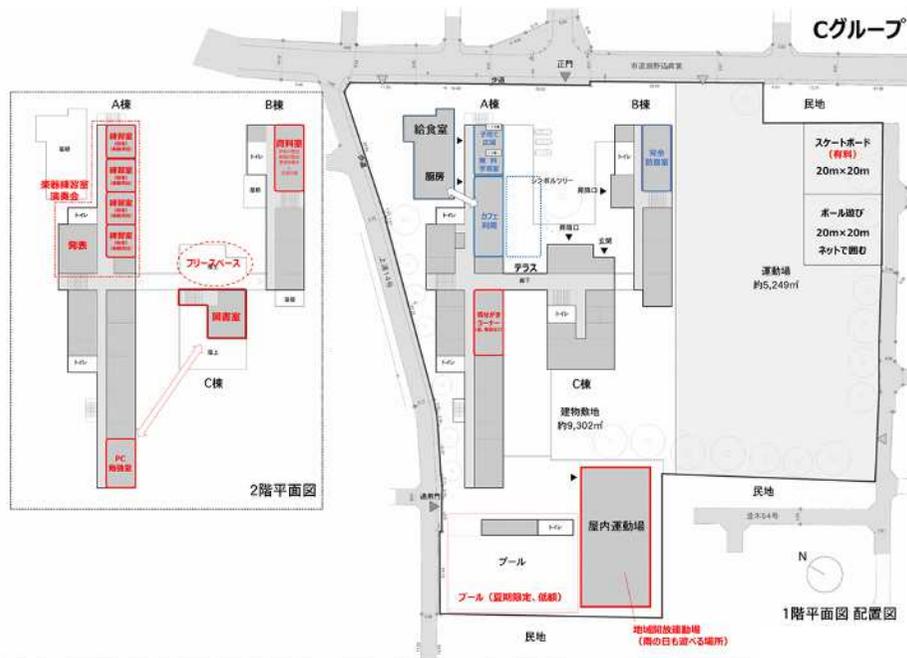
無料学習室
学生の来られる夕方に中学生～大学生が交わって勉強できる場所

体育館
パーティションで分けて雨の日に子どもたちが遊べるスペース

給食室の厨房利用
交流の場や子ども食堂として自由に使える厨房が欲しい

寄せ書き
玄関、オープンスペースなど来た人みんなが見られる壁に絵を描く

資料室
学校の雰囲気を残して教室に資料を展示、様々な世代での交流に



実現に向けたアイデア

自分たちができること
* パン作りや実験・プログラミング教室などのフリーの学び舎を市民で運営する。

お金をどうするか
* 妥当な使用料を設定し、学生は安くする。夕方までは子どもが無料で、夜は社会人に有料でお金をとるなど時間制で利用したい。
* 小さな催し物で入場料をいただき、運営資金に充てる。
* 地域でカフェをやりたい人に委託し、有料で運営する。寄せ書きコーナーもカフェと一緒に管理。
* 個人や地域運営委員会が図書館で本の販売や講演会を行う。

運営をどうするか
* 子どもまちづくり会議の中学生に防音室、学習室、発表室、音楽室などの運営を任せる。
* 施設管理は市で行い、今後の運営管理は地域で行う。施設の補修などを市に担ってもらおう。
* 運営の仕方を地域の各団体とよく相談をする。

目指す未来像

- ・主役は子どもたち、子どもたちがつくり活躍でき、ずっと続いていく場所づくり
- ・お年寄りの拠り所となり、障がい者も健全者も受け入れられる施設